

サインバスケットボール を探求する

Ver.1.1

ビバリード

Ver.1.1 2025年2月19日修正

Ver.1.0 2024年4月18日修正

BASE 2022年12月24日作成

since

2020

- **日本語(音声含む)**
 - 日本における一般的な音声言語のこと。
- **手指日本語(日本語対応手話)**
 - 手指だけで日本語を視覚化したもので、文法体系は日本語と同じ。
- **日本手話**
 - 手の形、位置、動きをもとに、表情も活用する独自の文法体系をもった手話(視覚)言語として法律で認知され、守られている。

言語は、ある特定の集団が用いる、音や文字による事態の伝達手段である。

(Wikipediaより)

「デフ」の定義



デフ: 一般的に、耳が聞こえない人や聴覚障がい者のことを指す。

聴覚レベルは軽度から重度に医学的に区別されている。

例) 電話ができる、日本語で発声できるデフ

例) 耳に頼らず、発声せず、手話のみで生活できるデフ

Deaf: 主に、視覚を活用した対話で社会生活をしている人を指す。

例) コーダなど、手話をメインに生活できる聴者(バイリンガル)

医学的に分類される「伝音性難聴」と「感音性難聴」

伝音性難聴

こんにちは。
今日はいい天気ですね。

補聴器

こんにちは。
今日はいい天気ですね。

小さかった音が
拡張され、神経で
音声を判別

感音性難聴

お；@：。ん j w'P#<%
'OJW-----w、h@ええ

補聴器

、@：。ん j w'P#<%
'OJW-----w、h@
ええ

音の判別ができな
いまま、拡張され
さらに雑音も拾っ
て入り混じる

感音性難聴は音の判別ができないのに、なぜわざわざ補聴器をするのか？

➡ 背後からの危険を少しでも察知するため(自動車のクラクション等)などであり、

決して、「聞こえるようになるから(音の判別ができるようになる)」ではない。

社会から見た思い込み

- 音声で話せるなら耳も聴こえているはずだよね。
- 聴こえなくても口は使えるから話せるよね。
- 言葉って日本語のことだよね。
- 日本語を正しく読み書きできないと社会ではやっていけないよね。
- みんな手話がわからないから、音声で話せるようにしてください。

話せるから、音が聞こえているからといっても「音の判別」ができているとは限らない。

特に日本手話で生活しているデフにとっては抑圧に感じる

デフスポーツでも同じことが起きている

- とりあえず見て真似する、でいいよ。
- 試合中でもベンチを見ないと伝えられないよ。
なんで今ベンチを見るんだ、ボールを見て、走って！
- 日本語で書いてあげたのに、なんでわからないの？
- 音声のほうがこっちとしてはやりやすいんだよね。
- だれか通訳して、誰でもいいから。

特に日本手話で生活しているデフスポーツ選手は成長しにくい

手話で生きるデフは「おいてけぼり」

日本手話は、言語であり、法律で保護されている。

しかし、日本手話の中に、日本語はない。

日本語で生活する聴者の世界からは「おいてけぼり」。

日本語を使っても聞こえないから、結局は「おいてけぼり」。

私たちは、デフがおいてけぼりにならない社会の
実現を目指し、バスケットで日本を元気にします。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



SDGsの取り組み

4 質の高い教育を
みんなに



すべての人が、視覚を活用した対話ができるようにすることで、
社会生活で「見る」ことを生かした、自分探しの生涯学習の機会を促進します。
バスケットでは、全ての選手が視覚を活用することでプレイの幅「も」広がります。

10 人や国の不平等
をなくそう



すべての人が、視覚を活用した対話ができるようにすることで、音声中心の
日本語の世界から取り残されている人々をなくし、不平等をなくしていきます。
バスケットでは、チーム内で取り残されている人がいなくなります。

16 平和と公正を
すべての人に



すべての人が、視覚を活用した対話ができるようにすることで、
社会の在り方が変わり、全ての制度が公正となり、平和が受け継がれていきます。
バスケットでは、競技ルールの在り方が発展し、より多くの人を楽しめるようになります。

バスケットボール競技を通して対話を深める

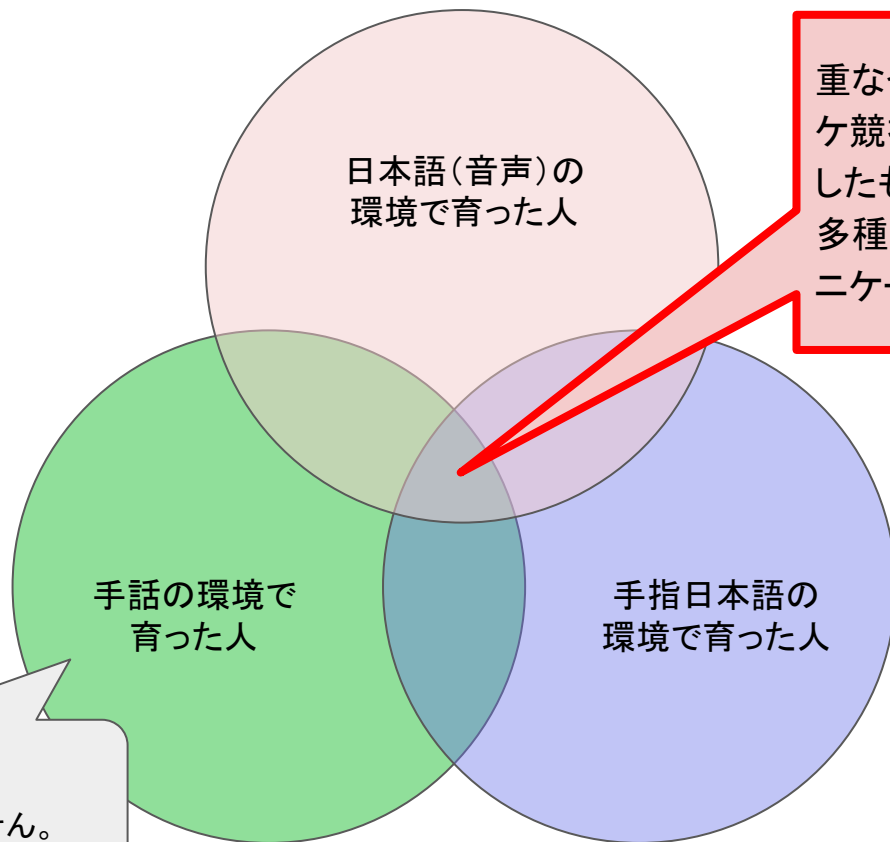
多種多様な人々がお互いに歩み寄って、
バスケットボール競技に特化した**共通身体言語**をつくって、
対話を深め、発展を目指す。

視覚と空間認識をフル活用
した身体言語がメイン

一般社団法人B-BALLY'd(ビバリード)は、
その環境を**「サインバスケットボール」**と提唱している。

そして、「声」との合わせ技で、全てのバスケットボール競技を
もっと幅広く、進化させていきたい。

「サインバスケットボール」が目指すもの



重なっている共通部分の中でバスケット競技に特化したサインを創り出したものが「サインバスケット」であり、多種多様な人々が織りなすコミュニケーション環境である。

勘違いされやすいのですが、手話の中に日本語はありません。

多種多様の人々が共生可能なサインバスケットボール競技を創り、
Deafバスケットボールを競技に昇華させ、持続的相互発展を実現する。

デフバスケットボールとして、技術や戦術などの優劣を競うことは
当然で、デフやDeafとして勝つために何を教えるかで定義が異なる。

「デフバスケットボールとはデフがプレイするバスケットボール競技**だけ**では、
デフやDeafをコミュニケーションの面から合理的に配慮したルールや指導方法の充実化、
競技力向上や持続的な発展を期待することは難しく、停滞してしまっている現状を打破する

Deafバスケットボールの定義を明確にする

(デフをバスケットに合わせるのではなく、バスケットをDeafに合わせる)

Deafバスケットボールを実現するために必要な材料を集め、
選手や有識者との『深い対話』と『挑戦的な探求』で定義化を進める

(専門用語・術語)

Deafバスケットボールに特化した視覚的なターミノロジーを

(止揚・揚棄)

サインバスケットボールでつくり、アウフヘーベンで昇華させる。

Aの意見: 自動車は地球にとって有害。

Bの意見: 自動車は人類にとって必要。

A、Bの意見対立2者を超えた結論として「電気自動車」が生まれた。

このアウフヘーベンの例を持って、

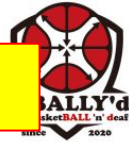
デフバスケットボールにおけるコミュニケーションの違いについて、

対立する二者(もしくは考え方の違い)をどちらも否定せずにかけて統合し、

一つの解として昇華させる過程を通して、より高次の段階へと進んでいく思考を持つことが大事。

最終目的を達成するために必要な材料(1)

Ver.1.1修正



1. 視覚言語を用いた深い対話と素早い意思疎通

★ どのように視覚的訴求をすれば、素早い意思疎通ができるか？

1. まず、現場で選手やスタッフの間で自然に作られるサインを見つけ、習得していく。
かつ、深い対話を経て、試合本番で効率よく実践できる方法を模索していく。
2. サインの引き出しを増やし、かつ、戦術や約束などに取り入れる(標準化)
3. 最終段階として、試合中どんな場面でも共通理解がされたらサインは不要。
(チームとしての完成度が高い状態になっている)
4. Deafバスケットボールの持続的な発展を実現するために、競技全ての情報(コート内外)を視覚的に素早く共有でき、どのような場面でも、自分と他者との共通認識を生み出すサインへ昇華させる(アウフヘーベン)

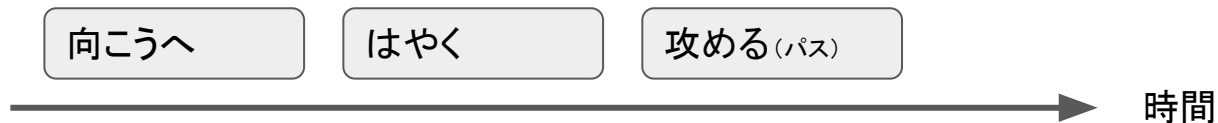
※ 手話という視覚言語で生きてきた身体性がある適切な「サイン」が生み出されるとも考慮する

【補足】日本手話の音韻要素

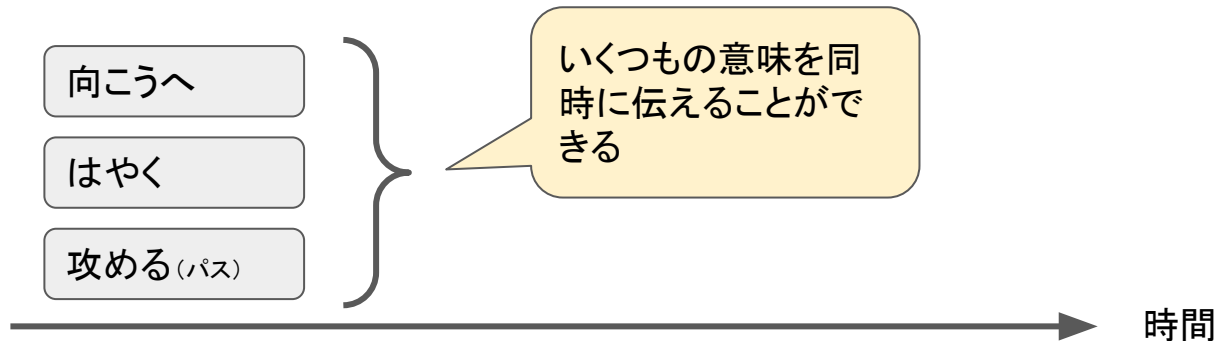
「手の型」「手の位置」「手の動き(方向)」

これらの要素を**同時に**組み合わせることで伝達速度をあげることが可能

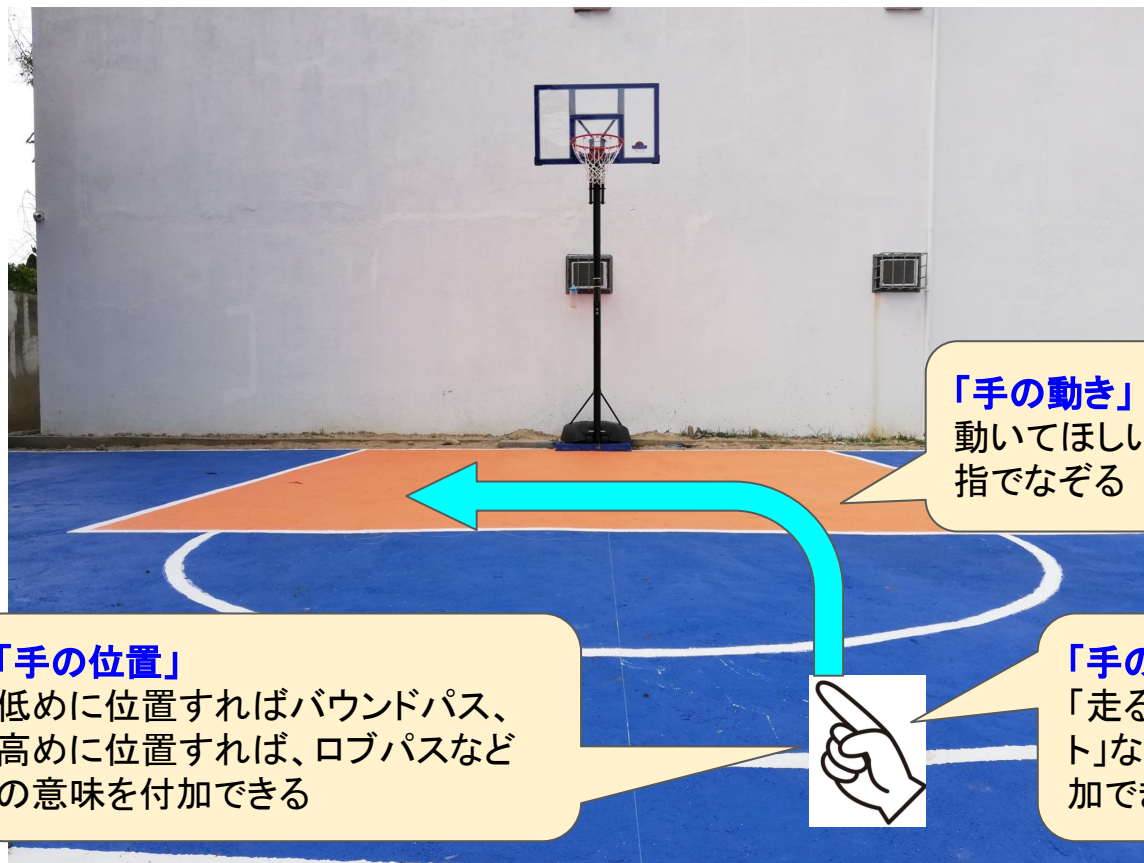
- 日本語(音声含む)と、手指日本語



- 日本手話



【補足】日本手話の音韻要素を使った例



「手の動き」

動いてほしい軌跡を
指でなぞる

「手の位置」

低めに位置すればバウンドパス、
高めに位置すれば、ロブパスなど
の意味を付加できる

「手の型」

「走る」「パス」「カッ
ト」などの意味を付
加できる

【補足】コート全体へ自分発信

- ◎自分から情報を発信する(コート全体に向けて)



最終目的を達成するために必要な材料(2)

2. 「Deafの視覚」を手に入れる

- 視覚的な情報を多く集める
- 周辺視野の変化にすぐ気づく
- 人の顔を正確に識別できる
- 映像を記憶する力がある



↑カットインのフェイクのみでなく、ディフェンスがスクリーナーをチラ見する際も狙える

表情を使ったコミュニケーション ↓

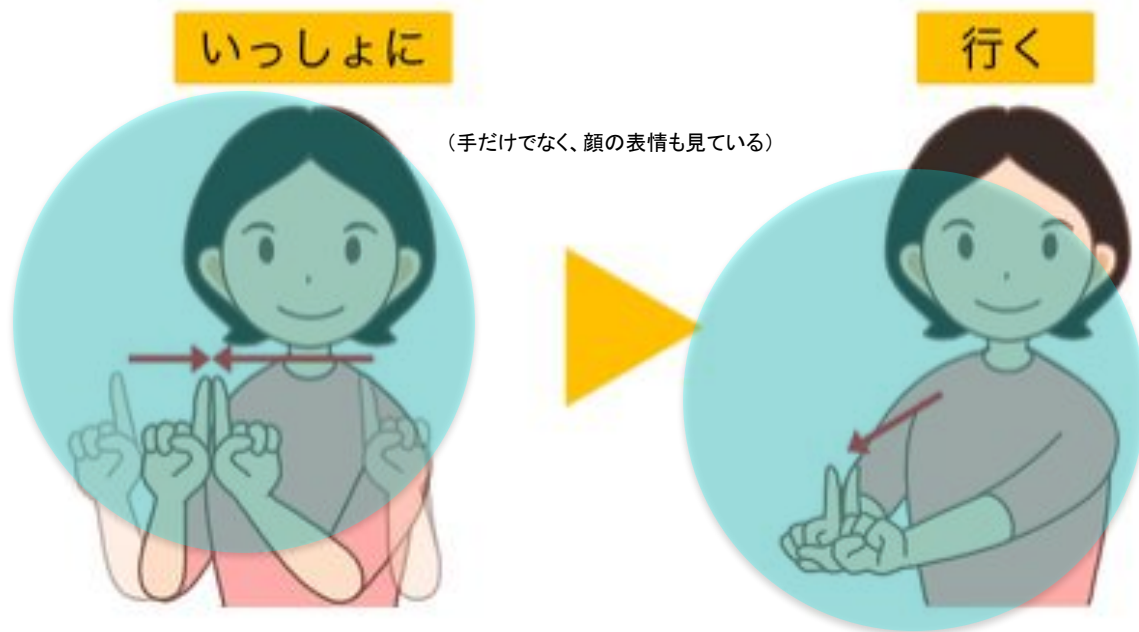


<https://note.com/matsuzakijo/n/n9abaf6c66a4c>

このように聴覚障害当事者と聴者は、同じ「目」を持っていても、「視覚」は違うのです。さらにいえば「視覚」を用いる文化も違う。ですから、それぞれの「視覚」文化を理解し、負担少なく心地よく参加できるような状況を共創することが大切になるのではないでしょうか。

【補足】手話を見るとき視野について

- 直線ではなく、円で見るときの視野について



【補足】パスがうまい選手の視野について

○ 直線ではなく、円で見ると、全体を円で把握



↑ 直線で見ると、隣のディフェンスが見えなくなり、パスカットに弱くなる
リングや味方が視野から外れるので、次の動きに繋がりにくくなる



↑ 円で見ると、隣のディフェンスが見えるようになり、パスカットに強くなる
リングも視野に入れることで、シュートの成功率も上がる
味方の動きの予測ができるようになり、ノールックパスを狙える

【補足】「見溜め」と「対話」と「くりかえし」

① 視覚的情報を**見て溜める**。

→ 複数の視覚情報を同時に取得はできない

→ 順番に見て、情報を溜める

→ 例として、作戦盤でコマを動かし終わってから、説明をする

※ 聴者は聴覚と視覚を併用しながら情報を得ていくやり方が多い

② 溜めた内容をもって、他者と**対話**する。

③ お互いが理解するまで、**くりかえす**。

3. デフフッド

- Deafに「**なりたい自分**」を探す
- 他者との深い対話をするためには
- 自己肯定感を高められる
- 聴者は「デフ」になれないが、「Deaf」にはなれる

「私なんて」と思うと、「私なんて」と思っている情報しか入ってこない。
「私ならできる!」と思うと、
できるようになるための情報が入る。
→カラーバス効果

最終目的を達成するために必要な材料(4)



4. バスケ競技における化学反応を高めるための「 DeafバスケIQ」

- 今起こっているシチュエーションで、どう判断して動くべきか
- そのときのコミュニケーションはどうするのか(サインで共有)
- サインは片手で表現するべき(ボールを扱う手との役割分担)
- スクリーンプレイに対する対処法など、「Deafだから」ではのアイデア
- バスケットボール競技の常識をひっくり返すアイデンティティ
- コーチと選手の間での共通認識を取る(もしくは取れたと確信する)方法

コーチからと、選手から、の両方の視点から方法を検討する

最終目的を達成するために必要な材料(5)

5. 「ワクワク」をキーワードにする

- 「**なりたい自分**」に、ワクワクしよう！
- 「やらなきゃ」という義務感よりも、ワクワクで「やりたい！」が最強
- ワクワクしながらDeafバスケットボールを楽しむが理想
- コーチも選手と一緒に幸せになると、コーチからの暴言暴力はない
- 選手が最高のパフォーマンスを発揮できる心理（心理的安全性）

恩塚監督の「成長に繋げる "ワクワク" マインドセット」に通じる

サインバスケットボールの定義からはじめてみる



- サインバスケットボールにおける優秀なコーチとは？
 - 多くの情報から最適解を選択できるコーチ(従来)
 - 最適解を適切な言語もしくは方法で瞬時に伝えることができるコーチ(新定義)
 - 方法の例:サイン、ロールプレイ、視覚共有順、ハンドシグナルなど(福島動画参照)
- 個別にスキルを磨いてもデフの試合では生かせない
 - 耳が聞こえない状況を生きたまま切り取って練習する方法の確立(生命論パラダイム)
 - デフと言っても聴覚障害の程度も違うし、使う言語も異なるのでどう確立するのか
- 選手が自ら成長するのを邪魔しない(指導者として最低限の倫理)
 - 環境が邪魔をしていることに気づき、改善することも指導者の役目のひとつ
 - 日本語を排除し、バスケットに必要なサインのみにするなど、思い切りのある指導者

バスケットボールからサインバスケットボールへ



- **バスケットボール競技経験のデフがサインバスケットボールを身につけるには**
 - 適切な言語もしくは方法で **周りと深い対話**ができること
 - 適切な言語もしくは方法で自分の意志を **周りに瞬時に伝えられる** こと
 - 視覚的に情報を読み取る技術(例:手話で話すときは顔と手を同時に見て判断)
- **日本代表チームを構築する**
 - 最も優先すべき練習は何か？
- **オープンスキルの中にサインをどう入れるのか**
 - 目で見えて判断する材料に、**「手」「表情」「空間」**を加える
 - 3次元(音声)から4次元(+空間)へ

スキルの変化(進化であり、退化ではない)

- **トリプル・スレットとドリブル・スレットの連結**
 - トリプル・スレットはボールを両手で持ってしまう
 - ドリブル・スレットでシュート、パスをいつでも出せるようにする
- **パスは全てワンハンド(転がす意識から)**
 - 持ってしまうとバスケが止まる(ピボットしかない状況)
 - ワンハンドならパスフェイクも身につけやすい
- **肩を動かさない**
 - 肩がぶれると視野もぶれる
 - 両肩と眉間を3点で意識し柔らかく固定してドリブルすると、視野は確保しやすい

サインバスケットボールの指導例

- 肩を動かすと視点がブレてドリブルも安定しない選手への指導例
 - 両手で下図のような三角形を作り、頂点が額、底辺の両端が両肩を示す
 - これだけで一発でイメージから入ることができ、表示時間の持続性も高い



バスケットで日本を元気に！

